

[実施期間]

令和2年6月1日 ~ 令和3年3月31日

2歳以上 18歳以下の麻疹風疹混合予防接種の説明書

西東京市

麻疹とは…

麻疹ウイルスの空気感染によって起こります。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人がかかる病気です。発熱、せき、鼻汁、目やに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発疹がでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。患者100人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約1～6人に合併します。脳炎は約1,000人に2人の割合で発生がみられます。また、麻疹（はしか）にかかった人は数千人に1人の割合で死亡します。

風疹とは…

風疹ウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は患者3,000人に1人、脳炎は患者6,000人に1人くらいです。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風疹症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害をもった児が生まれる可能性が高くなります。

麻疹風疹混合ワクチン（生ワクチン）

麻疹ウイルス及び風疹ウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。

1歳から2歳に至るまでの間に麻疹又は風疹にかかる可能性が高いので、第1期の接種がお済でない場合はなるべく早く第1期の予防接種を受けるように努めてください。第2期の接種は、小学校就学前の1年間、いわゆる幼稚園等の年長児が対象者となります。

第1期、第2期において、麻疹及び風疹の予防接種を同時に行う場合は、MR混合ワクチンを使用することとされています。

また、麻疹又は風疹のいずれかにかかった者にも、MR混合ワクチンを使用することが可能とされています。

なお、ガンマグロブリンの注射を受けたことがあるお子さんについての接種時期については、かかりつけ医とご相談してください。

【副反応】

主なものは、発熱と発疹です。37.5℃以上38.5℃未満の発熱は第1期で約8.6%、第2期で約3.4%にみられます。38.5℃以上の発熱は、第1期で約13.4%、第2期で約4.5%にみられます。発疹は、第1期で約6.6%、第2期で約1.7%にみられます。

他の副反応として、注射部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、けいれんなどがみられます。

（2006年度MRワクチン健康状況調査より）

1. 対象者

法定接種の対象者を除く 2歳以上 18歳以下の男女

※法定接種の対象年齢は次のとおりです。

第2期…5歳以上7歳未満で小学校就学前の1年間にあるお子さま

(小学校1年生になる前年の4月1日から翌年の3月31日までの1年間)

2. 接種方法

指定医療機関での個別接種（予約が必要な場合がありますので、必ず指定医療機関に確認してください。）

3. 持ち物

母子健康手帳、記入済みの予診票、予防接種費用

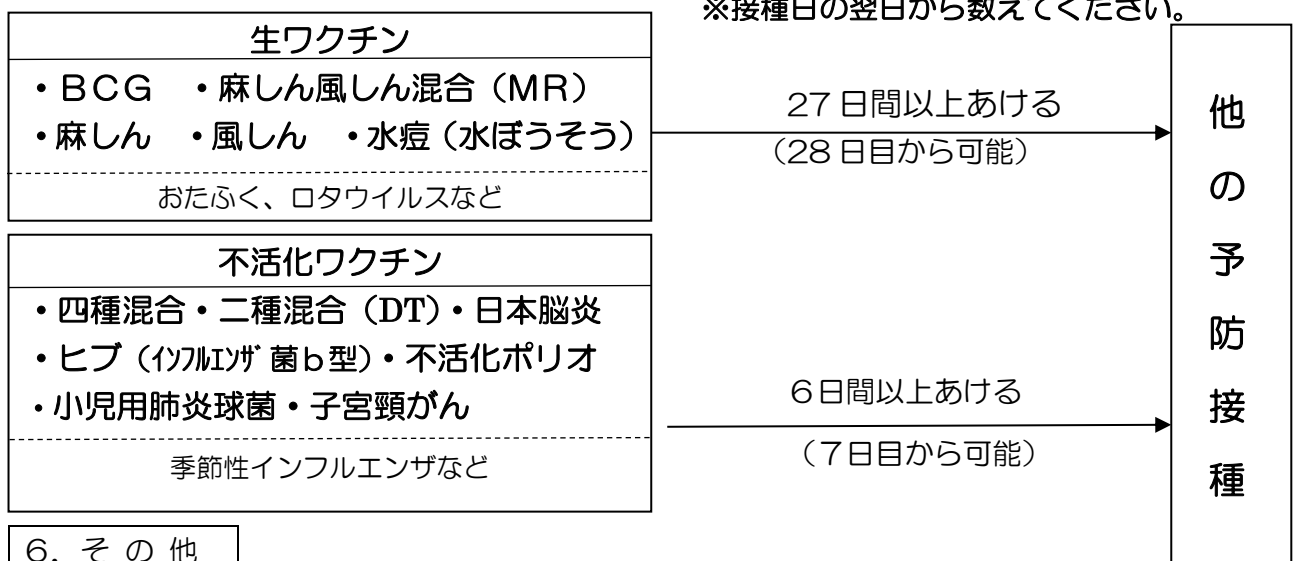
4. 自己負担額

麻しん風しん混合（MR）：5,800円

風しん単独ワクチン：4,000円

※生活保護受給世帯、中国残留邦人等支援給付世帯の方は無料です。その場合は、受給証明書等、受給世帯であることを証明するものを医療機関に持参して、接種してください。

5. 他の予防接種との間隔



6. その他

検温は、当日指定医療機関で行ってください。

※13歳以上の方は、保護者がこの説明書を読み、理解し、納得してお子さまに予防接種を受けさせることを希望する場合に、予診票に保護者の方が署名することによって、保護者が同伴しなくてもお子さまは予防接種を受けることができます（当日は予診票と母子健康手帳を必ず持参させてください。）。

予診票に署名するに当たっては、接種させることを判断する際に、疑問等があれば、あらかじめ、かかりつけ医や西東京市健康課（042-438-4021）に確認して、十分納得したうえで、接種させることを決めてからにしてください。

なお、被接種者本人が既婚の場合には、保護者の同伴も署名も必要ありません。医療機関にて既婚の本人が予診票に署名をすれば接種が可能です。